

#### Educational Mission

#### 人材育成目的

テクノロジー・マネジメント研究科は、科学技術の価値を理解し、社会発展に寄与する知識や技能・能力を持った人材を育成することを目的とする。

#### 研究科全体

本研究科は、科学技術の価値を理解し、社会発展に寄与する知識や技能・能力を持った人材を養成することを目的とする。

#### 前期課程

経営マインドのある技術者、技術を最大限に活かすことのできる経営者の育成を目指す。技術経営の概念、方法論を身につけ、企業及び社会における価値創造に指導的役割を果たし、グローバルに活躍できる人材を育成する。

#### 後期課程

企業における実践を普遍的、体系的概念や方法論に昇華し形式知化する研究者の育成を目指す。技術者・経営者など、技術経営の実践者としての経験を学問研究の場にフィードバックし、企業における実践を普遍的、体系的概念や方法論に昇華し形式知化し、グローバルに活躍できる人材を育成する。

#### Admission Policy

#### 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

激化する国際競争、深刻化する資源環境問題、予見困難な技術革新、激動する事業環境にさらされる現代企業は、答えのない問題に挑戦し、成功の道を探す、社会の変革を先取りする技術者、経営者を求めている。テクノロジー・マネジメント研究科は、博士課程前期課程においては、経営マインドのある技術者、技術を最大限に活かすことのできる経営者の育成を、博士課程後期課程においては、企業における実践を普遍的、体系的概念や方法論に昇華し形式知化する研究者の育成を目指す。そのために、出身大学、出身学部、勤務経験、担当業務に関わらず広く門戸を開放して、優秀かつ幅広い能力を持つ入学者を求める。具体的には、以下のような皆さんの入学を期待する。

1. 技術経営の概念、方法論を身につけ、企業における価値創造に指導的役割を果たしたいと考える人。
2. 理工学や社会科学の基礎に加えて、技術経営の概念、方法論を身につけることによって、より社会に貢献したいと考える人。
3. 技術経営の実践者としての経験を学問研究の場にフィードバックし、技術経営の理論を追求したいと考える人。

#### 前期課程

激化する国際競争、深刻化する資源環境問題、予見困難な技術革新、激動する事業環境にさらされる現代企業は、答えのない問題に挑戦し、成功の道を探す、社会の変革を先取りする技術者、経営者を求めている。テクノロジー・マネジメント研究科は、経営マインドのある技術者、技術を最大限に活かすことのできる経営者の育成を目指す。そのために、出身大学、出身学部、勤務経験、担当業務に関わらず広く門戸を開放して、企業人としての経験や、理工学や社会科学の知識を基盤に、技術経営の概念、方法論を身につけることによって、企業や社会における価値創造に指導的役割を果たしたいと考える人の入学を期待する。

#### 後期課程

激化する国際競争、深刻化する資源環境問題、予見困難な技術革新、激動する事業環境にさらされる現代企業は、技術を最大限に活かすことによって、社会の変革を先取りし、持続的成長を可能にする方法を模索している。テクノロジー・マネジメント研究科は、そのような企業の要求に答えるため、企業における実践を普遍的、体系的な概念や方法論に昇華し形式知化する研究者の育成を目指す。そのために、出身大学、出身学部、担当業務に関わらず広く門戸を開放して、技術経営の実践者としての経験を学問研究の場にフィードバックし、技術経営の理論を探究したいと考える社会人の入学を期待する。

#### Curriculum Policy

#### 教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

テクノロジー・マネジメント研究科は、研究科の人材育成目的達成のため、下記のような教育課程を編成する。

#### 前期課程

テクノロジー・マネジメント研究科博士課程前期課程では、人材育成目標を達成するために理論と実践の両面を兼ね備えた講義を展開し、ディスカッションやワークショップ形式を利用した双方向性を重視している。また実践教育の一環として、企業の現場の課題を解決する実習型の講義もあり、講義で身につけた理論を現場で実践する機会を設けている。カリキュラムでは、基礎科目で基礎専門的なMOT科目、コア

科目で技術経営の概念や研究方法論、知的財産法、新事業企画、ファイナンスなどを学び、展開科目では領域別の専門講義、選択科目では時流に乗ったトピックを扱う特殊講義などを用意しており、体系かつ広範に学べる構造としている。

研究指導科目に関しては、課程の最終到達点として質の高い課題研究論文や修士論文を完成させるために、1 回生から演習を開始し研究のための論理的思考や分析手法、研究テーマの抽出準備を行う。2 回生では、1 回生で学んだ論理思考や研究テーマに基づいた文献調査を深めるとともに活発にデータ収集を行い、執筆作業を進めていく。2 年間を通じて 4 度の報告会が行われ、段階的にブラッシュアップを行う仕組みを設けられている。

## 後期課程

テクノロジー・マネジメント研究科博士課程後期課程では、人材育成目標を達成するために、技術経営の研究者ならびに高度な知識を有する専門家として、新たな価値創造をリードするためのアカデミックな視点と、グローバル社会の中核人材として戦略的・理論的な思考に基づいて行動を実践する視点の両面で研究を推進している。

カリキュラムでは、博士論文執筆に必要な分析手法を学ぶためのコースワーク科目と論文執筆のための研究指導科目を設けられ、年数回の中間発表会など通じて、段階的に博士論文作成の力をつけるための支援を行っている。

## Diploma Policy

## 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

テクノロジー・マネジメント研究科は、科学技術の価値を理解し、社会発展に寄与する知識や技能・能力を持った人材を育成することを目的とし、下記のとおり修了時点において学生が身につけるべき能力(教育目標)を定める。

これらの能力の獲得は、研究科の各教育課程が規定する所定単位の修得と下記の各課程における学位論文評価基準に基づく審査の合格により、その達成とみなし、前期課程においては修士学位、後期課程においては博士学位を授与する。

**大学院生が修了時に身につけておくべき能力＝教育目標**

## 前期課程

1. 人間力の養成
2. 交渉力の養成
3. 実践力・コミュニケーション力の養成
4. 産業分野別の技術経営課題解決のための戦略立案能力の養成
5. 理論と実践のサイクルを体系化できる力の養成

## 後期課程(上記の能力を基盤として、以下の能力を重点的に養成する。)

1. 研究者としてビジネスにおけるグローバルで新たな価値創造に貢献できる能力の養成

## 論文評価基準

### 前期課程

学位の授与にあたっては、所定の終了要件を満たしたうえで、技術経営の概念・方法論の理解、問題意識の明確さ、研究テーマの妥当性など複数の基準により審査を行い、社会における価値創造にふさわしいと判断される学位申請者に学位を授与する。

### 後期課程

学位の授与にあたっては、所定の終了要件を満たしたうえで、学位審議委員会の審査に合格していることが条件となる。学位申請論文の審査にあたっての、学位審議委員会による学位論文審査および口頭試問は、技術経営の概念・方法論の理解、問題意識の明確さ、研究テーマの妥当性、先行研究との関係、論旨展開・文章表現の妥当性など複数の評価基準により審査され、企業における実践を普遍的、体系的概念や方法論に昇華し形式知化する技術経営研究における高度な研究能力を有すると判断される学位申請者に学位を授与する。